

様式 4

令和 8 年度第 3 回 富士見市社会教育委員会議 議事録						
日 時	令和 8 年 7 月 8 日（水）		開会 午後 7 時 1 5 分 閉会 午後 9 時 1 5 分			
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出 席 者	委員	渡邊（知）委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員	本田委員
		○	○	○	○	○
		八木橋委員	河村委員	檜山委員	亀森委員	西村委員
		○	○	○	○	○
	事務局	生涯学習課長、副課長、主任				
公開・非公開	公開（傍聴者 0 人）					
議 題	1 あいさつ 2 協議事項 ・地域学校協働活動について （１）地域学校協働活動の理念について 3 その他					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

【議 長】 前回、ふじみ野市の事例の振り返りをしたが意見がまとまらなかったこともあり、形から入るよりも理念的なものをまず固めていこうと思う。

事前配布した国等の各計画の資料から理念の拠り所となりそうな部分について各委員の意見を伺っていききたい。

【委 員】 理念の拠り所としては資料No.3 ①になると思う。地域全体が共に考え、当事者としてどう参画していくかが一番難しいところで、地域学校協働活動（以下、協働活動）にどれだけ協力者を集められるかが課題になると考えている。

【委 員】 コミュニティ・スクール（以下、ＣＳ）導入計画には協働活動のことが書かれていないので、どこを目指せばよいか考えないといけない。

和光市の事例も聞いてみたい。ウェルビーイングの表現は分かりづらいため、ほかの表現がよいと思う。

【委 員】 ふじみ野市はコーディネーター（以下、ＣＯ）が活躍しているが、当市では１人に任せるのは難しいと思う。本部が必要と考える。

資料をみるとキーワードで多いものは「つながり」。

コミュニティは縦割りが多いので、つながりを創るためには横ぐしを通す必要がある。

本部の役割はＣＯをサポートし、人と人を繋げやすくすることだと思う。

【委 員】 資料No.2 14頁に「地域や産業界などの声を聞く」と記載があるが、今までになかった部分だと思う。当市のＣＳに産業界の参加がないのは残念。

【委 員】 ウェルビーイングの捉え方は人により違いがある。当市としてどのように考えるかが大事。

理念のキーワードとして次の項目に着目した。

資料No.3 「地域とともにある学校づくり」、「社会教育による学び」

資料No.4 「充実した日々」、「笑顔」など具体的なものがあるとよい。

資料No.5 「地域の教育力を生かし、教育効果を高める学校教育」の部分がＣＳに合致している。どのように地域と学校を結びつけるか。

資料No.7 ②「推進体制の充実」が、ＣＳ本部の考え方にあたる。

資料No.8 「子育て」は自ら育つことを意味しておりよいと思う。

本部もありながら公民館もブロックで分けてもよいと思う。

【委 員】 資料No.3 ①②と資料No.6に着目した。

資料No.6 12頁の目指す市民像について、生涯に渡って学び考え行動するために、どのように考えたらよいかと思っている。

【委 員】 市で目指す基本理念に向かって進めていけばよいのではないか。

資料No.6 13頁「地域」について、子どもの成長発達だけでなく、住みよいまちづくりの部分で、学校以外にも地域が活性化していて子どもが参画することで富士見市らしさが出るのではないかな。

産業界、NPO、企業、スポーツ団体とは今まで関わりがなかったので関わりを持ちたい。ただし特定の企業とすると問題があるか分からないため委員ではなく、本部に企業が入ると理想的だと感じた。

【委員】 資料No.3①どのような子どもたちを育てるのか、どのような地域を創っていくのかの部分で理念を考える上で重要だと思う。

資料No.6、7の計画に沿う形になるか詰めていく。CS、協働活動を考える上で子どもだけでなく地域とともに考え、当事者として参画していくことが必要。

【議長】 地域活動、本部による活動を進めていくことでどのような地域になっていくか。また子どもがどう育っていくかについては、理念を定めれば、おのずと方向性が決まっていくと思う。

子どもが地域に関わったときに、どのような理想的な地域となるか考えていきたい。

【委員】 他市の事例でNPOが核となって手話のできる市民を育成し、その市民が子どもに教えることで学びの循環ができていたので参考になるのではないかな。

【委員】 ある区では小学生に地場野菜を広め、その情報が子どもから親に伝えることで広がり、子どもから大人へ学びが循環している事例もある。

【委員】 当市にずっと住みたい、戻ってきたいといえる大人になってほしい。CS、協働活動によって、地域が活性化するような組織になればよいと思う。

【議長】 もう一步踏み込んで考えたい。

大人と子どもの間で循環し、地域も子どもの力で活気づくような姿がよい。そのような意見を伺いたい。

【委員】 資料No.3①「どのような子どもを育てていくのか」に対し、資料No.6①～⑥が答えになると思う。この部分を掘り下げていきたい。

例えば④「郷土（まち）の未来を拓く人」をどのような人とするか定義づけしようということか。

【議長】 それも1つだと思う。目指す市民像をこれにすると決まればよい。

資料No.6②～④と13頁の「地域」の記載から拾っていきたい。

【委員】 資料No.6①「一人ひとり」、④「自ら」、資料No.8①「子育て」は主体性を示していると思う。

資料No.6④「郷土（まち）」について富士見市は産業が弱い、産業界とつながることで未来につながるのではないかな。

未来を拓くために大人も子どもも一人ひとりが主体性を持ち、地域と関わることで未来が広がると考えている。

【議長】 どのような地域とするか、そのためにどのような人（大人、子ども）が必要か。人の集合体（地域）の理想と、人（大人、子ども）の理想像を考えたい。

【委員】 何も決まっていないことに対して提言するのは難しい。

【委員】 素晴らしい人を育てると世界に巣立ってしまう。

地域愛を育てるにはウェルビーイングが鍵になる。一人ひとりが愛着を持って富士見市に住みたいと思っているか。

他市では企業が倒産し税収が落ち人口が減った。企業がウェルビーイングを支えていたが、企業も大事だが経営が傾くと人は離れる。ただ、市に残っている人もいて、理由としては自然が豊かでそこにウェルビーイングを感じている。地域に愛着を持っている人が接することで地域と学校の関わりが根付いていくのでないか。当市が元々持っている強みを整理し、生かした方がよいと考える。

【議長】 理念については一旦仮置きして、提言を作成したときに市の計画に沿っているか確認することとしたい。

次に提言の内容に入っていきたい。富士見市としての協働活動はこうあるべきという視点で提言したいと思っているがその点はどうか。

【委員】 最終的に本部を設置することとするのか。公民館とか学校別に本部を設置するのかを終着点とするように感じている。

【委員】 学校や地域により企業の有無など格差が生じるので、ＣＯの力が大事になると思う。ＣＯの能力差をなくすよう市がＣＯを育てていくことが必要だと思っている。

【委員】 本部を成り立たせるパーツは揃っている。高齢化の問題もあり、次の世代にどうやって継続していくか。新しいものが出来るかが課題と感じている。

【議長】 今回は富士見市としての協働活動の在り方を提言するために、どこに着目するのか考えていきたい。

地域への愛着、学びの循環、産業界を巻き込むなど、何を活かしていくかポイントを絞っていきたい。

次回までに何を特色に進めていくか事前に各委員の意見を提出してもらいたい。

3 その他

委員より 5 月 26 日に開催された令和 8 年度地域学校協働活動推進研修「コーディネーター研修会」の参加報告があった。

・次回開催日程

9 月 8 日（火）午後 7 時から中央図書館視聴覚ホールにて開催予定。